

東京湾内湾の谷津干潟の魚類相 - II

荒尾一樹・馬渡和華・大原庄史・風呂田利夫

Kazuki Arao, Kazuka Motai, Masashi Ohara and Toshio Furota:
Ichthyofauna of Yatsu Tidal Flat in the inner Tokyo Bay - II

緒 言

千葉県習志野市に位置する谷津干潟は、面積約 40ha の潟湖である（図 1）。東京湾の埋め立てが進み干潟が減少した中、内湾に残された谷津干潟は渡り鳥の中継地として重要であることから、1993 年にラムサール条約の登録湿地となった。谷津干潟は国内で 7 番目、干潟として初の登録で、2018 年に葛西海浜公園が登録されるまで東京湾唯一のラムサール条約登録湿地であった。都市部に残された貴重な湿地とそこに生息する生物を保全する上で、生物相を把握することは非常に重要である。しかし、魚類相に関してはほとんど情報がなかったため、谷津干潟自然観察センターでは魚類調査を行い、12 目 21 科 28 種の魚類を標本・写真に基づいて報告した（荒尾ほか, 2019）（以下、前報と称する）。その後も動向を把握するために調査を継続し、魚類の標本・写真を収集してきた。その結果、前報を上回る 9 目 22 科 32 種の魚類を確認した。その中には谷津干潟から初記録とな

る種も多く含まれているため、追加記録としてここに報告する。

調査地と方法

調査は前報と同様、主に谷津川と高瀬川へと接続する谷津干潟内の滞筋で行なった（図 1）。2018 年 9 月 8 日から 2019 年 8 月 18 日の間に合計 16 回、小型定置網、投網、手網を使用して魚類を採集した（表 1）。小型定置網は設置した翌日に回収し、表 1 には回収日を記した。採集した魚類は種の同定後、その場に放流したが、一部は 10 % ホルマリン水溶液で固定し、標本とした。また、補足として調査期間内に撮影された写真についてもあわせて報告する。さらに、環境省が 2017 年 7 月 24 日、25 日、8 月 4 日、5 日に地引網、小型定置網を使用して行なった谷津鳥獣保護区環境調査で得られた標本を入手したので、それについても報告する。標本は神奈川県立生命の星・地球博物館の魚類標本資料（KPM-NI）、写真は魚類写真資料（KPM-NR）として登録・保管した。種

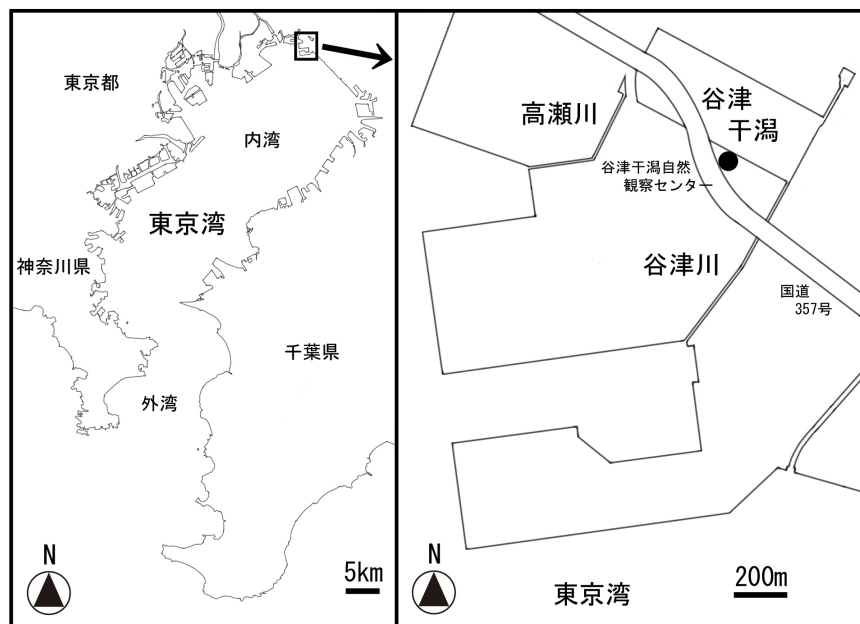


図 1. 調査地点.

表 1. 調査日と調査方法

年月日	小型定置網	投網	手網
2018 9. 8			●
9.10		●	
9.11	●		
9.23			●
10.11		●	
12. 6			●
2019 1. 9	●		
3.25			●
3.26	●		
5.22	●		
5.31			●
6.13			●
6.14	●		●
7.17		●	
7.18	●		
8.18		●	

の同定, 配列, 和名, 学名は, 本文中に明記したものを除き, 中坊編 (2013) に従った。また, 加納ほか (2000) に従ってそれぞれの種の生活史型を区分した (表 2)。

結 果

調査の結果, 9 目 22 科 32 種の魚類を確認し, その内の 6 目 17 科 24 種が谷津干潟初記録種であった。前報とあわせると谷津干潟で確認した魚類は計 13 目 34 科 52 種となった (表 2)。以下に各種について確認状況, 東京湾での出現状況などを記す。東京湾での出現状況については, 本文中に明記したものを除き, 河野監修 (2011) を参考とした。

トビエイ目
Myliobatiformes
アカエイ科
Dasyatidae

アカエイ
Hemitrygon akajei (Müller & Henle, 1841)

標本: KPM-NI 52857, 1 個体 (体盤幅 110.5 mm), 小型定置網, 2019 年 7 月 18 日 (図 2 A)。

備考: 前報では写真だけの報告で, 本報告で産出されたばかりと思われる個体の標本が得られた。学名は中坊編・監修 (2018) に従った。

ツバクロエイ科
Gymnuridae

ツバクロエイ
Gymnura japonica (Temminck
& Schlegel, 1850)

写真: KPM-NR 205057, 1 個体, 目視, 2019 年 8 月 8 日 (図 2 B)。

備考: 上げ潮時に谷津川から谷津干潟に侵入するところを目視確認した。東京湾では全域から出現記録があるが, 谷津干潟初記録となる。

ニシン目
Clupeiformes
ニシン科
Clupeidae

コノシロ
Konosirus punctatus (Temminck
& Schlegel, 1846)

標本: KPM-NI 52859, 2 個体 (体長 47.0, 47.2 mm), 地引網, 2017 年 7 月 24 日; KPM-NI 52869, 3 個体 (体長 25.5–27.5 mm), 小型定置網, 2017 年 7 月 24 日; KPM-NI 52872, 3 個体 (体長 21.2–25.6 mm), 小型定置網, 2017 年 8 月 4 日; KPM-NI 52877, 3 個体 (体長 22.2–23.7 mm), 小型定置網, 2017 年 8 月 5 日; KPM-NI 52827, 1 個体 (体長 71.6 mm), 投網, 2018 年 9 月 10 日 (図 2 C)。

備考: 前報に引き続き, 本報告でも標本が得られた。

アンコウ目
Lophiiformes
カエルアンコウ科
Antennariidae

ハナオコゼ
Histrio histrio (Linnaeus, 1758)

標本: KPM-NI 52868, 1 個体 (体長 49.2 mm), 地引網, 2017 年 7 月 24 日 (図 2 D)。

備考: 前報では写真だけの報告で, 本報告で標本が得られた。

トゲウオ目
Gasterosteiformes
ヨウジウオ科
Syngnathidae

ヨウジウオ
Syngnathus schlegeli Kaup, 1856

標本: KPM-NI 52862, 1 個体 (体長 188.5 mm), 地引網, 2017 年 7 月 24 日 (図 2 E)。

備考: 東京湾では全域で採集記録があるが, 谷津干潟初記録となる。

ガンテンイシヨウジ
Hippichthys (Parasyngnathus) penicillus (Cantor,
1849)

標本: KPM-NI 52838, 2 個体 (体長 99.6, 104.3

mm), 投網, 2018 年 10 月 11 日; KPM-NI 52856, 1 個体 (体長 128.3 mm), 投網, 2019 年 7 月 17 日 (図 2 F)。

備考: 分布が北上する傾向が認められている種で, 近年になって東京湾でも記録されるようになり, 湾内で繁殖と越冬に成功している可能性も示唆されている (酒井ほか, 2018)。谷津干潟初記録となる。

ボラ目
Mugiliformes
ボラ科
Mugilidae

ボラ
Mugil cephalus cephalus Linnaeus, 1758

標本: KPM-NI 52866, 1 個体 (体長 75.4 mm), 地引網, 2017 年 7 月 24 日; KPM-NI 52874, 1 個体 (体長 72.6 mm), 小型定置網, 2017 年 8 月 5 日。

備考: 前報に引き続き, 本報告でも標本が得られた。

メナダ
Chelon haematocheilus (Temminck
& Schlegel, 1845)

標本: KPM-NI 52839, 1 個体 (体長 133.4 mm), 投網, 2018 年 10 月 11 日 (図 2 G); KPM-NI 52858, 1 個体 (体長 55.2 mm), 投網, 2019 年 8 月 18 日。

備考: 東京湾では全域から採集記録があるが, 谷津干潟初記録となる。

ダツ目
Beloniformes
トビウオ科
Exocoetidae

ウチダトビウオ
Cypselurus naresii (Günther, 1889)

標本: KPM-NI 52860, 1 個体 (体長 23.2 mm), 地引網, 2017 年 7 月 24 日 (図 2 H)。

備考: 東京湾から記録があるが, 谷津干潟初記録となる。

ダツ科
Belonidae

ダツ
Strongylura anastomella (Valenciennes, 1846)

標本: KPM-NI 52861, 1 個体 (全長 59.8 mm), 地引網, 2017 年 7 月 24 日 (図 2 I); KPM-NI 52873, 1 個体 (全長 132.8 mm), 小型定置網, 2017 年 8 月 4 日。

備考: 前報に引き続き, 本報告でも小型個体の標本が得られた。

スズキ目
Perciformes
コチ科
Platycephalidae

マゴチ
Platycephalus sp. 2 *sensu* Nakabo & Kai, 2013

標本: KPM-NI 52823, 5 個体 (体長 32.6–36.0 mm), 投網, 2018 年 9 月 10 日; KPM-NI 52830, 3 個体 (体長 30.1–52.4 mm), 手網, 2018 年 9 月 23 日 (図 2 J); KPM-NI 52837, 1 個体 (体長 88.0 mm), 投網, 2018 年 10 月 11 日。

備考: 東京湾では全域から採集記録があるが, 谷津干潟初記録となる。

アジ科
Carangidae

カンパチ
Seriola dumerili (Risso, 1810)

標本: KPM-NI 52863, 1 個体 (体長 39.1 mm), 地引網, 2017 年 7 月 24 日; KPM-NI 52864, 1 個体 (体長 49.0 mm), 地引網, 2017 年 7 月 24 日 (図 3 A); KPM-NI 52865, 1 個体 (体長 38.3 mm), 地引網, 2017 年 7 月 24 日。

備考: 東京湾では横浜市や外湾で稚魚の採集記録がある。谷津干潟初記録となる。

ヒイラギ科
Leiognathidae

ヒイラギ
Nuclequula nuchalis (Temminck & Schlegel, 1845)

標本: KPM-NI 52829, 5 個体 (体長 12.8–16.9 mm), 小型定置網, 2018 年 9 月 11 日; KPM-NI 52834, 2 個体 (体長 33.0, 35.4 mm), 投網, 2018 年 10 月 11 日 (図 3 B)。

備考: 東京湾では全域の干潟域や砂浜海岸, 漁港などで普通に見られる。谷津干潟初記録となる。

クロサギ科
Gerreidae

クロサギ
Gerres equulus Temminck & Schlegel, 1844

標本: KPM-NI 52828, 1 個体 (体長 17.4 mm), 手網, 2018 年 9 月 8 日; KPM-NI 52824, 1 個体 (体長 25.7 mm), 投網, 2018 年 9 月 10 日; KPM-NI 52835, 1 個体 (体長 33.1 mm), 投網, 2018 年 10 月 11 日 (図 3 C)。

備考: 東京湾では全域の沿岸浅所から出現記録がある。

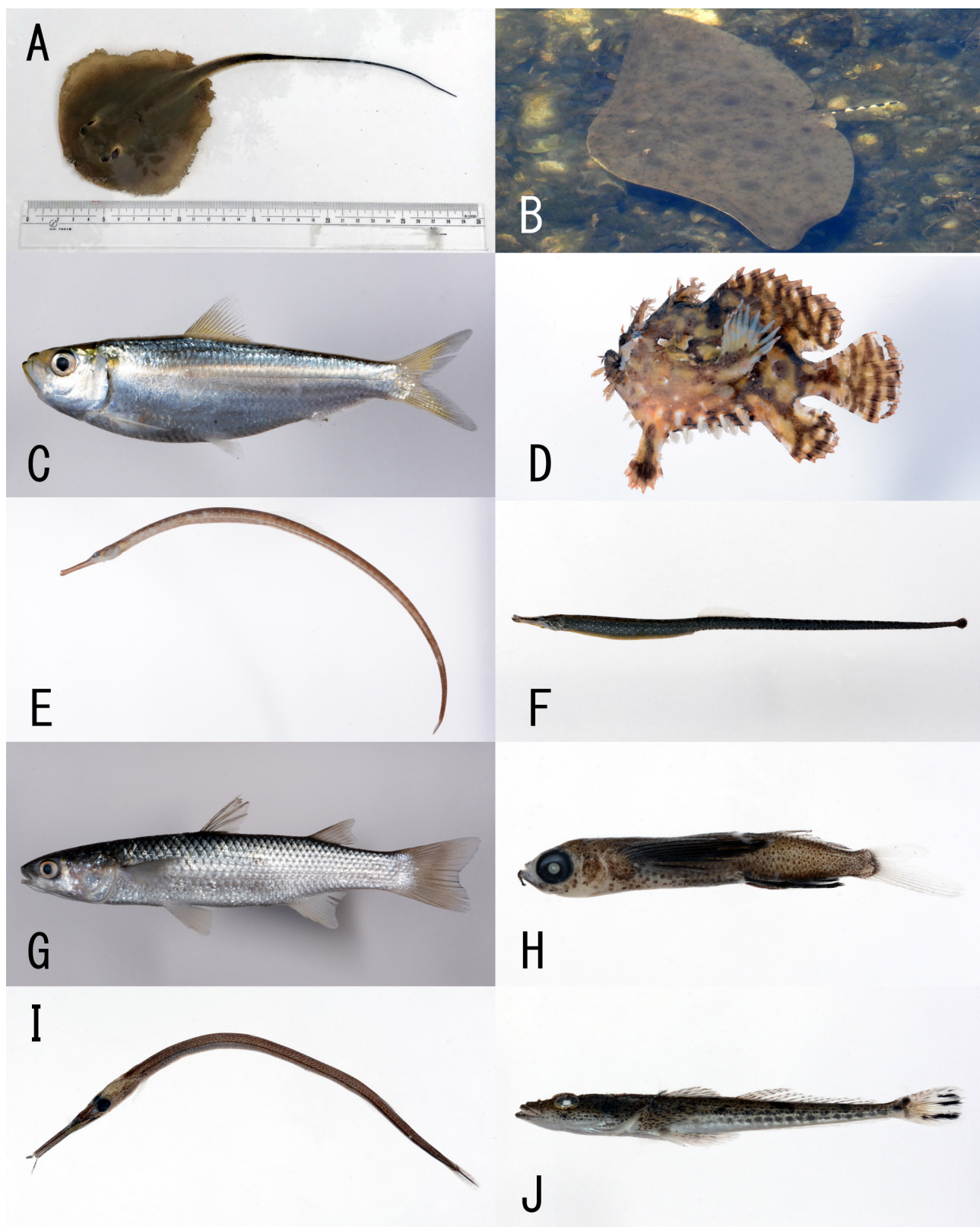


図2. 確認した魚類。A, アカエイ *Hemitrygon akajei*, KPM-NI 52857, 体盤幅 110.5 mm ; B, ツバクロエイ *Gymnura japonica*, KPM-NR 205057 ; C, コノシロ *Konosirus punctatus*, KPM-NI 52827, 体長 71.6 mm ; D, ハナオコゼ *Histrio histrio*, KPM-NI 52868, 体長 49.2 mm ; E, ヨウジウオ *Syngnathus schlegeli*, KPM-NI 52862, 体長 188.5 mm ; F, ガンテンイシヨウジ *Hippichthys (Parasyngnathus) penicillus*, KPM-NI 52856, 体長 128.3 mm ; G, メナダ *Chelon haematocheilus*, KPM-NI 52839, 体長 133.4 mm ; H, ウチダトビウオ *Cypselurus naresii*, KPM-NI 52860, 体長 23.2 mm ; I, ダツ *Strongylura anastomella*, KPM-NI 52861, 全長 59.8 mm ; J, マゴチ *Platycephalus* sp. 2, KPM-NI 52830, 体長 52.4 mm.

谷津干潟初記録となる。

イサキ科
Haemulidae

コショウダイ

Plectorhinchus cinctus (Temminck & Schlegel, 1843)

標本: KPM-NI 52826, 2 個 体 (体 長 30.0, 33.5 mm), 投網, 2018 年 9 月 10 日 (図 3 D)。

備考: 東京湾では湾奥から外湾にかけての干潟域や砂浜海岸, 港湾の人工護岸近くで, 夏から秋に体長 3-13 cm の個体が採集されている。谷津干潟初記録となる。

ニベ科
Sciaenidae

シログチ

Pennahia argentata (Houttuyn, 1782)

標本: KPM-NI 52871, 1 個 体 (体長 30.0 mm), 小型定置網, 2017 年 8 月 4 日; KPM-NI 52833, 2 個 体 (体長 45.8, 52.0 mm), 投網, 2018 年 10 月 11 日 (図 3 E)。

備考: 東京湾では湾奥から外湾にかけての干潟域や人工海岸, 砂浜海岸などで, 夏から秋に体長 15-50 mm の個体が出現する。谷津干潟初記録となる。

キス科
Sillaginidae

シロギス

Sillago japonica Temminck & Schlegel, 1843

標本: KPM-NI 52825, 4 個 体 (体長 35.6-55.5 mm), 投 網, 2018 年 9 月 10 日; KPM-NI 52831, 1 個 体 (体長 37.4 mm), 手網, 2018 年 9 月 23 日; KPM-NI 52836, 1 個 体 (体長 57.2 mm), 投網, 2018 年 10 月 11 日 (図 3 F)。

備考: 東京湾では全域から出現記録があるが, 谷津干潟初記録となる。

シマイサキ科
Teraponidae

シマイサキ

Rhynchopelates oxyrhynchus (Temminck & Schlegel, 1842)

標 本: KPM-NI 52832, 2 個 体 (体 長 18.8, 22.2 mm), 手網, 2018 年 9 月 23 日 (図 3 G)。

備考: 東京湾では湾奥から外湾にかけての沿岸浅所で普通に見られる。谷津干潟初記録となる。

イスズミ科
Kyphosidae

ノトイスズミ

Kyphosus bigibbus Lacepède, 1801

標本: KPM-NI 52870, 1 個 体 (体長 21.7 mm), 地引網, 2017 年 7 月 25 日 (図 3 H)。

備考: 東京湾でイスズミ科魚類はイスズミ *K. vaigiensis*, テンジクイサキ *K. cinerascens*, ミナミイスズミ *K. pacificus*, ノトイスズミの 4 種が記録されているが, 背鰭軟条数が 12, 臀鰭軟条数が 11, 胸鰭軟条数が 20 であることなどからノトイスズミに同定された。東京湾では流れ藻に付いてノトイスズミの幼魚がやってくる (工藤監修, 2013)。谷津干潟初記録となる。

イソギンボ科
Blenniidae

トサカギンボ

Omobranchus fasciolatoceps (Richardson, 1846)

標 本: KPM-NI 52854, 2 個 体 (体 長 40.2, 42.8 mm), 手網, 2019 年 6 月 14 日 (図 3 I)。

備考: 東京湾では全域から出現記録があるが, 谷津干潟初記録となる。

イダテギンボ

Omobranchus punctatus (Valenciennes, 1836)

標本: KPM-NI 52840, 1 個 体 (体長 43.6 mm), 手網, 2018 年 12 月 6 日; KPM-NI 52851, 1 個 体 (体長 56.6 mm), 小型定置網, 2019 年 6 月 14 日 (図 3 J)。

備考: 東京湾では全域から出現記録があるが, 谷津干潟初記録となる。

ハゼ科
Gobiidae

ミミズハゼ

Luciogobius guttatus Gill, 1859

標本: KPM-NI 52848, 1 個 体 (体長 53.8 mm), 手網, 2019 年 5 月 31 日 (図 4A); KPM-NI 52853, 1 個 体 (体長 51.5 mm), 手網, 2019 年 6 月 14 日。

備考: 東京湾では全域から採集記録があるが, 谷津干潟初記録となる。

アベハゼ

Mugilogobius abei (Jordan & Snyder, 1901)

標本: KPM-NI 52875, 3 個 体 (体長 34.1-37.7 mm), 小型定置網, 2017 年 8 月 5 日; KPM-NI 52878, 3 個 体 (体長 33.4-39.4 mm), 小型定置網, 2017 年 8 月 5 日 (図

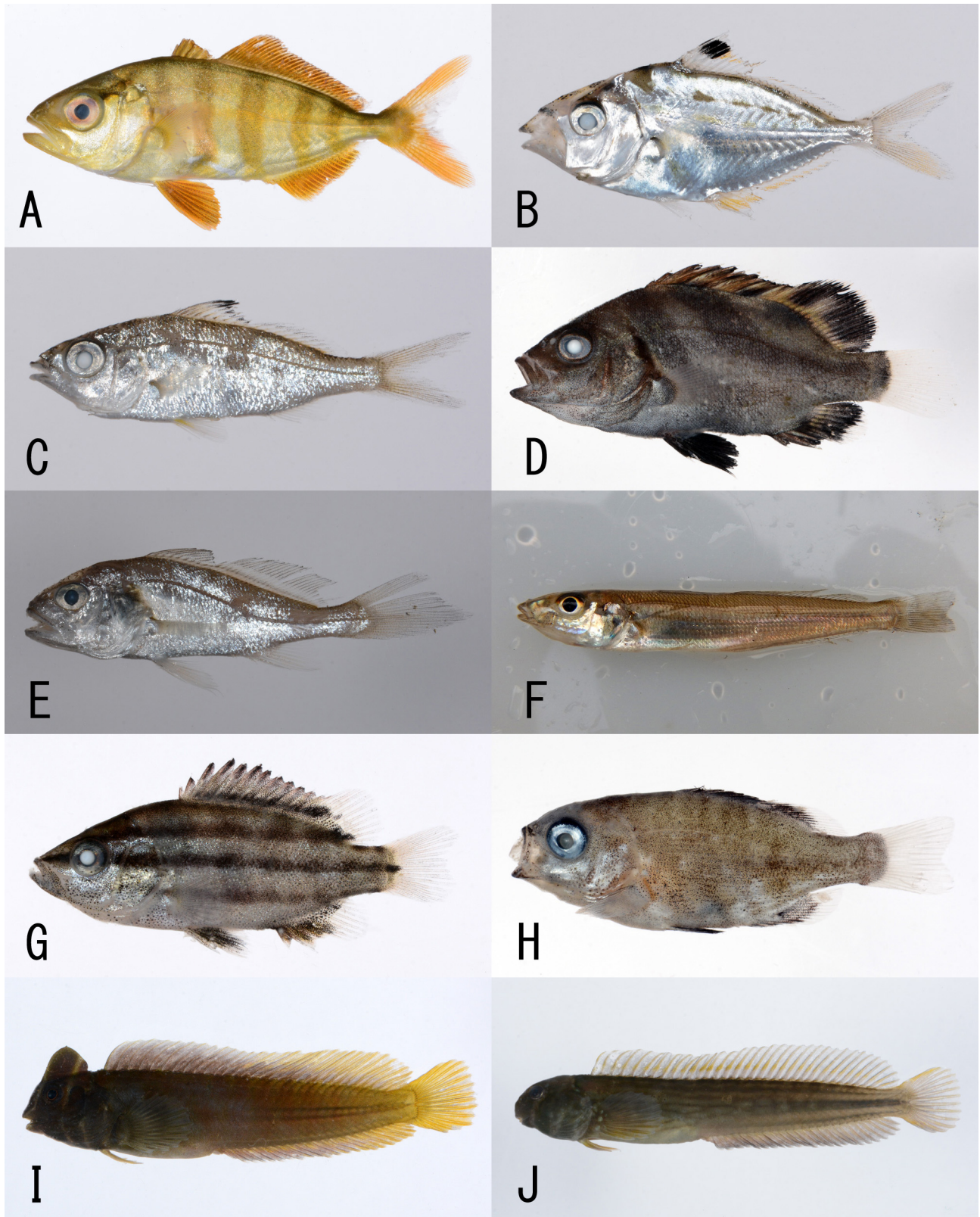


図3. 確認した魚類. A, カンパチ *Seriola dumerili*, KPM-NI 52864, 体長 49.0 mm ; B, ヒイラギ *Nuchequula nuchalis*, KPM-NI 52834, 体長 35.4 mm ; C, クロサギ *Gerres equulus*, KPM-NI 52835, 体長 33.1 mm ; D, コショウダイ *Plectorhinchus cinctus*, KPM-NI 52826, 体長 33.5 mm ; E, シログチ *Pennahia argentata*, KPM-NI 52833, 体長 52.0 mm ; F, シロギス *Sillago japonica*, KPM-NI 52836, 体長 57.2 mm ; G, シマイサキ *Rhynchopelates oxyrhynchus*, KPM-NI 52832, 体長 22.2 mm ; H, ノトリスズミ *Kyphosus bigibbus*, KPM-NI 52870, 体長 21.7 mm ; I, トサカギンボ *Omobranchus fasciolatoceps*, KPM-NI 52854, 体長 42.8 mm ; J, イダテンギンボ *Omobranchus punctatus*, KPM-NI 52851, 体長 56.6 mm.

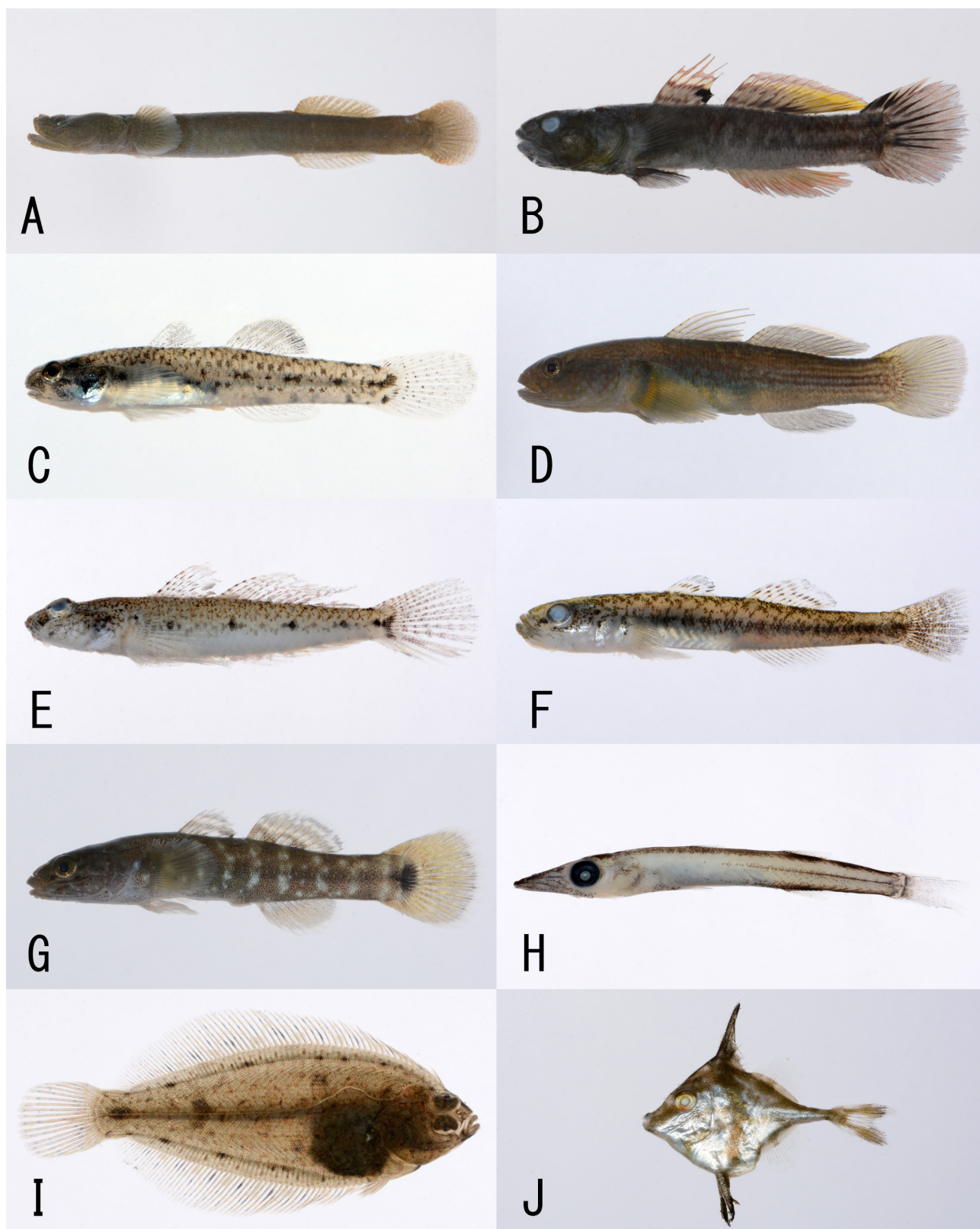


図4. 確認した魚類. A, ミミズハゼ *Luciogobius guttatus*, KPM-NI 52848, 体長 53.8 mm ; B, アベハゼ *Mugilogobius abei*, KPM-NI 52878, 体長 39.4 mm ; C, マサゴハゼ *Pseudogobius masago*, KPM-NI 52849, 体長 24.4 mm ; D, ヌマチチブ *Tridentiger brevispinis*, KPM-NI 52852, 体長 59.4 mm ; E, ヒメハゼ *Favonigobius gymnauchen*, KPM-NI 52841, 体長 35.8 mm ; F, ニクハゼ *Gymnogobius heptacanthus*, KPM-NI 52879, 体長 36.7 mm ; G, ドロメ *Chaenogobius gulosus*, KPM-NI 52850, 体長 31.7 mm ; H, アカカマス *Sphyaena pinguis*, KPM-NI 52867, 体長 25.5 mm ; I, マコガレイ *Psuedopleuronectes yokohamae*, KPM-NI 52843, 体長 32.2 mm ; J, ギマ *Triacanthus biaculeatus*, KPM-NI 52880, 体長 18.2 mm.

4B)。

備考：前報に引き続き、本報告でも標本が得られた。

マサゴハゼ

Pseudogobius masago (Tomiyama, 1936)

標本：KPM-NI 52849, 1 個体 (体長 24.4 mm), 手網, 2019 年 6 月 13 日 (図 4C); KPM-NI 52855, 1 個体 (体長 22.2 mm), 投網, 2019 年 7 月 17 日。

備考：東京湾では内湾の河口域や潟湖にある干潟域に生息する。谷津干潟初記録となる。環境省のレッドデータブック (環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室編, 2015) では絶滅危惧Ⅱ類, 千葉県のレッドリスト (千葉県環境生活部自然保護課編, 2019) では重要保護生物に選定されている。

ヌマチチブ

Tridentiger brevispinis Katsuyama, Arai
& Nakamura, 1972

標本：KPM-NI 52847, 1 個体 (体長 52.6 mm), 小型定置網, 2019 年 5 月 22 日; KPM-NI 52852, 1 個体 (体長 59.4 mm), 手網, 2019 年 6 月 14 日 (図 4D)。

備考：東京湾では湾奥から外湾に流入する河川で成魚が普通に見られる。谷津干潟初記録となる。千葉県のレッドリスト (千葉県環境生活部自然保護課編, 2019) では一般保護生物に選定されている。

ヒメハゼ

Favonigobius gymnauchen (Bleeker, 1860)

標本：KPM-NI 52841, 1 個体 (体長 35.8 mm), 小型定置網, 2019 年 1 月 9 日 (図 4E); KPM-NI 52846, 1 個体 (体長 36.4 mm), 小型定置網, 2019 年 3 月 26 日。

備考：東京湾では内湾の干潟域に普通に生息している。谷津干潟初記録となる。

ニクハゼ

Gymnogobius heptacanthus (Hilgendorf, 1879)

標本：KPM-NI 52876, 3 個体 (体長 36.8–37.3 mm), 小型定置網, 2017 年 8 月 5 日; KPM-NI 52879, 5 個体 (体長 32.9–36.7 mm), 小型定置網, 2017 年 8 月 5 日 (図 4F)。

備考：東京湾では全域から出現記録があるが、谷津干潟初記録となる。

ドロメ

Chaenogobius gulosus (Guichenot, 1882)

標本：KPM-NI 52850, 1 個体 (体長 31.7 mm), 手網, 2019 年 6 月 14 日 (図 4G)。

備考：東京湾では湾奥から外湾にかけての人工護岸近

くや転石域, カキ礁, 岩礁域のタイドプールや浅所に普通に生息している。谷津干潟初記録となる。

カマス科

Sphyraenidae

アカカマス

Sphyraena pinguis Günther, 1874

標本：KPM-NI 52867, 1 個体 (体長 25.5 mm), 地引網, 2017 年 7 月 24 日 (図 4H)。

備考：東京湾では湾奥から外湾にかけての砂浜海岸や漁港などで体長約 3–10 cm の個体が採集されている。谷津干潟初記録となる。

カレイ目

Pleuronectiformes

カレイ科

Pleuronectidae

イシガレイ

Platichthys bicoloratus (Basilewsky, 1855)

標本：KPM-NI 52842, 2 個体 (体長 22.0, 22.2 mm), 手網, 2019 年 3 月 25 日; KPM-NI 52845, 8 個体 (体長 23.0–37.8 mm), 小型定置網, 2019 年 3 月 26 日。

備考：前報に引き続き、本報告でも標本が得られた。学名は尼岡 (2016) に従った。

マコガレイ

Psuedopleuronectes yokohamae (Günther, 1877)

標本：KPM-NI 52843, 4 個体 (体長 29.2–32.2 mm), 手網, 2019 年 3 月 25 日 (図 4I); KPM-NI 52844, 10 個体 (体長 20.8–39.2 mm), 小型定置網, 2019 年 3 月 26 日。

備考：東京湾では全域から採集記録があるが、谷津干潟初記録となる。学名は尼岡 (2016) に従った。

フグ目

Tetraodontiformes

ギマ科

Triacanthidae

ギマ

Triacanthus biaculeatus (Bloch, 1786)

標本：KPM-NI 52880, 1 個体 (体長 18.2 mm), 小型定置網, 2017 年 8 月 5 日 (図 4J)。

備考：前報に引き続き、本報告でも標本が得られた。

考 察

前報とあわせて計 13 目 34 科 52 種の魚類を谷津干潟

表 2. 確認した魚類と生活史型

No.	目名	科名	種名	前報 (荒尾ほか, 2019)	本報告
1	メジロザメ目	ドチザメ科	ドチザメ	●	
2	トビエイ目	アカエイ科	アカエイ	●	●
3		ツバクロエイ科	ツバクロエイ		●
4	ウナギ目	ウナギ科	ニホンウナギ	●	
5		アナゴ科	マアナゴ	●	
6	ニシン目	ニシン科	サッパ	●	
7			コノシロ	●	●
8		カタクチイワシ科	カタクチイワシ	●	
9	コイ目	コイ科	マルタ	●	
10	アンコウ目	カエルアンコウ科	ハナオコゼ	●	●
11	トゲウオ目	ヨウジウオ科	ヨウジウオ	●	●
12			ガンテンイシヨウジ	●	●
13	ボラ目	ボラ科	ボラ	●	●
14			メナダ		●
15	カダヤシ目	カダヤシ科	カダヤシ	●	
16	ダツ目	サヨリ科	クルマサヨリ	●	
17		トビウオ科	アヤトビウオ	●	
18			ウチダトビウオ		●
19		ダツ科	ダツ	●	●
20	スズキ目	メバル科	シロメバル	●	
21		コチ科	マゴチ		●
22		スズキ科	スズキ	●	
23		アジ科	カンパチ		●
24		ヒイラギ科	ヒイラギ		●
25		クロサギ科	クロサギ		●
26		イサキ科	コショウダイ		●
27		タイ科	クロダイ	●	
28		ニベ科	シログチ		●
29		キス科	シロギス		●
30		シマイサキ科	シマイサキ		●
31		イスズミ科	ノトイスズミ		●
32		イソギンボ科	トサカギンボ		●
33			イダテンギンボ		●
34		ハゼ科	ミミズハゼ		●
35			トビハゼ	●	
36			マハゼ	●	
37			アベハゼ	●	●
38			マサゴハゼ		●
39			シモフリシマハゼ	●	
40			ヌマチチブ		●
41			ウロハゼ	●	
42			ヒメハゼ		●
43			スミウキゴリ	●	
44			ニクハゼ		●
45			ビリンゴ	●	
46			ドロメ		●
47		カマス科	アカカマス		●
48	カレイ目	カレイ科	イシガレイ	●	●
49			マコガレイ		●
50	フグ目	ギマ科	ギマ	●	●
51		カワハギ科	カワハギ	●	
52		フグ科	クサフグ	●	

で確認した（表 2）。科別にみると、ハゼ科が 13 種（全体の 25%）と最も多く、残りの科は 1-2 種であり、ハゼ科の割合は前報の 25%と変わらなかった。生活史型別にみると、海水魚は 37 種（71%）、河口魚は 11 種（21%）、淡水魚、遡河回遊魚、降河回遊魚、両側回遊魚は 1 種であり、海水魚の割合は前報の 64%よりも増加した。前報で、谷津干潟は東京湾の他の干潟と異なり、流入河川がなく、周辺に大きな河川もないため、海水魚の種数が優占するといった特異的な魚類相が形成されていることが示唆されたが、本調査でその傾向がより強く現れた。谷津干潟ではしばしばアマモ類 *Zostera* spp. の流れ藻が見られ、ハナオコゼ、ヨウジウオ、カンパチ、ノトイスズミなどの海水魚を流れ藻とともに採集している。東京湾の干潟域の魚類相は周辺環境の差異を反映することが知られており（加納ほか，2000），谷津干潟の周辺にアマモ場など良好な海水魚の生息場所があり、そこから潮の

干満にあわせて多様な海水魚が谷津干潟に出入りしている可能性が示唆される。また、谷津干潟は東京湾と 2 本の小河川でしか繋がっていないが（図 1），堰や水門などの横断工作物がないために海水魚の侵入が容易であることも海水魚が優占する要因であると考えられる。今後も調査を継続すれば、海水魚の確認種はさらに増えるものと思われる。しかし、谷津干潟と同様、埋立地に囲まれた閉鎖的な潟湖である新浜湖では、多様な生活史型からなる魚類相が単調化し、海水魚や両側回遊魚を欠く独特の魚類相へと変遷したことが報告されている（河野ほか，2008）。今後も調査を継続して情報を蓄積し、長期的な視野で魚類相の動向を注視する必要がある。また、谷津干潟の魚類相を良好な状態で保全していくためには、周辺海域も含めた対策が重要であると考えられる。

謝 辞

魚類の生息情報を提供いただいた谷津干潟自然観察センターの永井祐紀氏，習志野市在住の荒川武夫氏，ダツ目とイスズミ科の同定と標本・写真の登録・保管でお世話になった神奈川県立生命の星・地球博物館の瀬能 宏氏，谷津干潟への立ち入りに便宜を図っていただき、谷津鳥獣保護区環境調査結果の公表を快諾いただいた環境省関東地方環境事務所成田自然保護官事務所の井手正博氏，谷津鳥獣保護区環境調査で得られた標本を提供いただいた株式会社生態解析部の川口 究氏，池田宗平氏，寺田龍介氏，小蕎圭太氏，原稿の改訂にあたり有益なコメントをいただいた査読者である神奈川県水産技術センターの工藤孝浩氏に感謝の意を表する。

引用文献

- 尼岡邦夫，2016. 日本産ヒラメ・カレイ類. 229 pp. 東海大学出版部，平塚．
- 荒尾一樹・馬渡和華・芝原達也・風呂田利夫，2019. 東京湾内湾の谷津干潟の魚類相. 神奈川自然誌資料，(40)：41-48.
- 千葉県環境生活部自然保護課編，2019. 千葉県の保護上重要な野生生物 千葉県レッドリスト 動物編 2019 年改訂版. 40 pp. 千葉県環境生活部自然保護課，千葉．
- 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室編，2015. レッドデータブック 2014 -日本の絶滅のおそれのある野生生物- 4 汽水・淡水魚類. 414 pp. ぎょうせい，東京．
- 加納光樹・小池 哲・河野 博，2000. 東京湾内湾の干潟域の魚類相とその多様性. 魚類学雑誌，47(2)：115-129.
- 河野 博監修，2011. 東京湾の魚類. 374 pp. 平凡社，東京．
- 河野 博・横尾俊博・茂木正人・加納光樹，2008. 東京湾岸に位置する人工潟湖（新浜湖）の魚類相. 日本生物地理学会会報，63: 133-142.
- 工藤孝浩監修，2013. さかなクンの東京湾生きもの図鑑. 175 pp. 講談社，東京．
- 中坊徹次編，2013. 日本産魚類検索：全種の同定，第三版. 2428 pp. 東海大学出版会，秦野．
- 中坊徹次編・監修，2018. 小学館の図鑑 Z 日本魚類館. 524 pp. 小学館，東京．
- 中坊徹次・甲斐嘉晃，2013. コチ科. 中坊徹次編：日本産魚類検索：全種の同定，第三版，pp. 734-740, 1953-1955. 東

海大学出版会，秦野．

酒井 卓・瀬能 宏・加納光樹，2018. 東京湾におけるガンテン
イシヨウジ *Hippichthys penicillus* の採集記録と北限個体群
の確立の可能性．日本生物地理学会会報，72: 5-10.

荒尾一樹・馬渡和華：習志野市谷津干潟自然観察セン
ター；大原庄史：NPO 法人生態教育センター；風呂田
利夫：東邦大学理学部東京湾生態系研究センター

（受領 2019 年 9 月 1 日；受理 2019 年 12 月 23 日）